

大学の社会的責任(USR)活動を評価・改善するための指標づくり —SDGsを視野に入れて

齊藤 紀子 (千葉商科大学) *

橋本 隆子 (千葉商科大学) *

安藤 崇 (千葉商科大学)

杉本 卓也 (千葉商科大学)

アブストラクト

少子化にともなう 18 歳人口の減少、環境問題や格差問題など山積する社会的課題、地域社会とのつながりの重要性などを背景に、大学に対する期待や要望は変化・多様化している。大学はその社会的責任(University Social Responsibility : USR)として、ステイクホルダーの真のニーズを見極めて社会・環境へ配慮した意味ある応答をしていくことが求められる。

千葉商科大学ではこうした問題意識のもと、USR や企業の社会的責任(CSR)に関する研究・議論を参考にしながら、大学の USR 活動の評価・改善方法について学生とともに調査研究を進めている。2017 年度は、私立大学 30 校余による「私立大学社会的責任研究会」報告書(2006)や社会的責任に関する国際ガイダンス文書 ISO26000(2010)に示された指標をもとに、千葉商科大学の取り組みについて予備的な自己評価を行った。これを踏まえて今年度は、USR を果たすために優先的に取り組むべき中核課題を「環境」「消費者課題」「地域社会」に設定し、SDGs(Sustainable Development Goals)を視野に入れつつ、評価方法を更に検討している。従来の大学評価指標にはない独自の指標として、大学活動による社会的インパクトを測定する指標づくりに取り組んでいる。本報告ではその進捗を紹介する。

Development of social indicators considering SDGs to assess and improve USR activities

Saito, Noriko (Chiba University of Commerce)*

Hashimoto, Takako (Chiba University of Commerce)*

Ando, Takashi (Chiba University of Commerce)

Sugimoto, Takuya (Chiba University of Commerce)

Abstract

The change of social conditions such as the decline of 18-year-old population, a lot of social issues such as widening economic gaps and environmental/energy issues, and increasing importance of collaboration with local communities have diversified people's expectations and needs toward universities. Universities need to assess and address those needs with meaningful responses considering impacts on environment and society as the University Social Responsibilities (USR).

Chiba University of Commerce started research on social impacts of its USR activities and self-assessment examining previous studies on USR and Corporate Social Responsibility (CSR). We conducted the preparatory self-assessment in 2017 based on the indicators presented by ISO 26000 (2010), an international guidance on social responsibility, and the research report issued in 2006 by the USR study group that consists of over 30 private universities. Now we focus on three core subjects "the environment", "consumer issues" and "community development", and examine the social indicators considering Sustainable Development Goals (SDGs) to assess social impacts by our USR activities. We present the research progress as unique indicators to assess and improve USR activities.

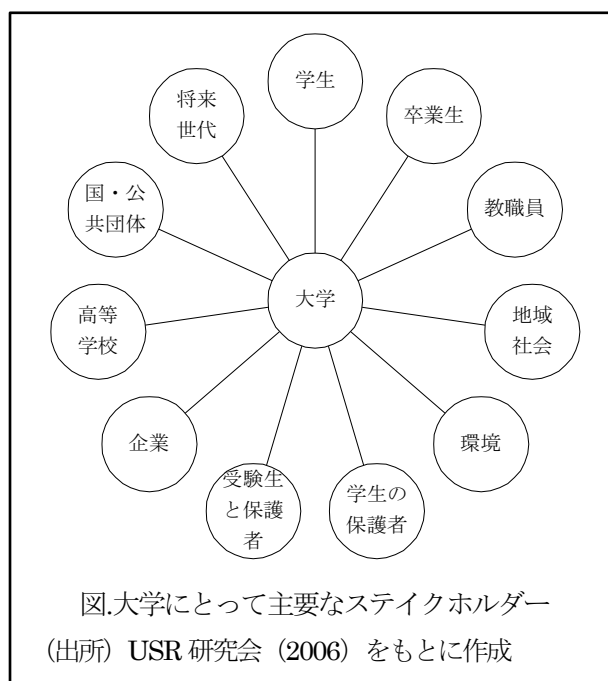
大学の社会的責任(USR)活動を評価・改善するための指標づくり —SDGs を視野に入れて

齊藤 紀子 (千葉商科大学) *
橋本 隆子 (千葉商科大学) *
安藤 崇 (千葉商科大学)
杉本 卓也 (千葉商科大学)

1. 問題意識

少子化にともなう 18 歳人口の減少、環境問題や格差問題など山積する社会的課題、地域社会とのつながりの重要性などを背景に、大学に対する期待や要望は変化・多様化している。大学はその社会的責任(University Social Responsibility : USR)として、ステイクホルダーの真のニーズを見極めて社会・環境へ配慮した意味ある応答をしていくことが求められる。

このような背景のもと「私立大学社会的責任 (USR) 研究会 (以下、USR 研究会)」(会長：藤田幸男芝浦工業大学理事長、32 大学が参画) では、社会的責任に関する国際ガイドンス文書 ISO26000²の策定における議論を参考にしながら、企業の社会的責任 (CSR) との比較検討により USR を「大学が教育・研究等を通じて建学の精神等を実現していくために、社会(ステイクホルダー)の要請や課題等に柔軟に応え、その結果を社会に説明・還元できる経営組織を構築し、教職員がその諸活動において適正な大学運営を行うこと」(私立大学社会的責任研究会 2006) と定義した³。そして USR を果たす大学経営のための実践的な考え方として、7つの中核課題「ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント・アカウンタビリティ」「人権」「労働・教育環境」「環境への配慮」「ステイクホルダーが抱える課題」「公正ビジネス慣行・市場ルール」「コミュニティ」と、それぞれの課題群を提示した。



ただ残念ながらその提言が社会に十分に浸透したとは言い難い。その原因のひとつとして、既存の大学評価ランキングの多くが偏差値や入学難易度、教育力、研究力、就職力、国際力、財政力を評価するものであり、USR を果たす上で重要な環境・社会への配慮に関する評価指標が組み込まれているとはいえ、USR 活動が評価されにくいことが挙げられるであろう。そこで我々は USR 活動を評価するための新たな指標を提案することを目的として調査研究を進めている。

1 社会のメジャーなニーズ、目の前のニーズに振り回されるのではなく、社会にとって大切な本当のニーズを見出すことが必要である (鷲田 2008; 吉澤 2014)

2 企業のみならずあらゆる組織を対象とする。2010 年発行。

3 国公立大学と比べて私立大学ではとくに、大学の生存戦略として USR に取り組んでいると指摘されている (吉澤 2014 : 環境会議 2013)。

2. 千葉商科大学の USR 活動の自己評価

新たな評価指標の検討に向けて 2017 年度は、千葉商科大学の USR への取り組み状況の確認も兼ねて、USR 研究会が示した中核課題および課題群に基づき予備的な自己評価を行った。中核課題のうちとくに「環境への配慮」「ステイクホルダーが抱える課題」「コミュニティ」に焦点を当て、課題群 (USR 研究会、2006、pp. 92-97) を評価指標として、本学の取り組みを①対応できている、②未対応、③対応しているか不明、とに分類した上で②③に該当した項目につき担当部署にインタビュー調査を行った。その結果、現状把握と今後求められる活動や施策に関する意見交換を行うことができた。

3. 新たな評価指標の開発

2017 年度の自己評価の内容を踏まえて今年度は、USR を果たすために本学が優先的に取り組むべき中核課題を「環境問題への取り組み」「学生生活の改善 (消費者課題)」「地域社会との繋がり」に設定し、SDGs(Sustainable Development Goals)を視野に入れつつ、評価方法を学生とともに更に検討している。以下、その進捗を紹介する。

3-1. 先行事例の調査

大学が教育・研究・学生支援や社会的責任などを考えるためのランキングとして、University of Indonesia が実施している Green Metric World University Ranking の調査を行った。これは各大学が自らを分析・評価し改善のための方策を考え実行すること、他大学の取り組みから学ぶことを目的としており、2010 年にスタートして以来、現在では 70 か国以上の約 620 大学が参画している。今後の課題として、環境面での取り組みを評価する指標に加えて社会に関する指標が必要であるものの、途上国から先進国まで、大規模大学から中小規模大学まで、社会背景や目指すゴールの異なるあらゆる大学が回答可能で定量的に測定できる指標を開発することは難しく、社会指標の開発についてさらなる研究・議論が必要であることが明らかとなった。

本調査をもとにした議論の結果、まずは国内/一定エリア内など限定的に適用可能な指標を独自に創っていくことが重要との共通認識に至った。

3-2. 企業の統合報告書におけるサステナビリティ・マネジメント体系の調査

企業経営に環境や社会への配慮を組み込み、SDGs との関係性を明らかにしながら、さまざまな取り組みと情報開示を積極的に進めている企業の報告書を、複数学部の複数ゼミにわたって学生とともにレビューした。そこから企業がどのように中核課題に関するマテリアリティ (ESG 重要課題) と KPI (Key Performance Indicator : 主要業績評価指標) を設定し、その達成に向けて改善活動を進めているのかということ。「サステナビリティ・マネジメント体系」として学んだ。

企業によるこうしたマテリアリティと KPI の考え方を USR 活動に援用することは、新たな評価指標づくりの方法として有効であると考えられる。本学の USR 中核課題「環境問題への取り組み」「学生生活の改善 (消費者課題)」「地域社会との繋がり」について KPI を設定しようとするのは、それがすなわち新たな指標 (社会指標) の開発に繋がる。そこで中核課題ごとに担当ゼミを設けて、どのようにマテリアリティと KPI を設定していくか調査研究を進めることとした。

3-3. 目指す大学像の検討

マテリアリティと KPI の設定にあたり、まず本学が目指す大学像について議論を行った。その結果、中長期的なゴールとして、ステイクホルダーのニーズに応える大学であることに加え「学生が誇りをもてる大学」を目指すことが合意された。そしてこれを目指して、中核課題ごとのゴールと、そのための活動、活動による初

期アウトカムとアウトカムを検討・設定していった。

3-4. USR を果たすためのマテリアリティと KPI の検討、SDGs との関連性チェック

中核課題ごとのゴールや取り組むべき活動の検討・設置と同時並行で、2017年度に予備的自己評価を行った際の USR 研究会による課題群を整理・統合して、マテリアリティの検討・絞り込みを行った。また、それらマテリアリティが SDGs とどのような関連性があるのか検討して一覧表にまとめ、本学のサステナビリティ・マネジメント体系の素案を作成した。

なお、マテリアリティの検討と併せて KPI の検討も進めているが、何を測定することが適切なのか未だ不明確であること、案として挙げられた KPI の中でも定量的に測定しやすいもの（たとえばキャンパス内での電力使用量・節電量や太陽光発電による発電量、オープン PC の使用率、昼食購入のための待ち時間、ボランティア登録・参加人数、公開講座の実施回数・参加者数など）としにくいものがあること、などにより今後さらなる検討が必要であることが明らかとなった。

4. 今後の展望

学生とともに調査・研究を進めてきたことにより、学生が当事者意識をもって大学の「環境問題への取り組み」「学生生活の改善（消費者課題）」「地域社会との繋がり」を考えるようになってきていることは、教育上すぐれて意義があったと考えられる。ただ現時点では、本学の USR 活動を評価・改善するためのマテリアリティ・KPI の検討は途中段階にあるため、今後さらに調査研究・検討を進め、国内／一定エリア内など限定的に適用可能な指標を提案していきたい。その際には教職員・学生による自己評価のみならず、地域社会の人々や企業、自治体などのステイクホルダーによる外部評価も実施可能な指標としていくことが望ましいであろう。

<主要参考文献・資料>

- ・環境会議（2013）「大学の社会的責任が問われる時代」『環境会議』No. 40, pp. 168-176.
- ・私立大学社会的責任（USR）研究会（2004, 2005, 2006, 2007）『私立大学の社会的責任に関する研究報告』
- ・私立大学社会的責任研究会（2008）『USR 入門—社会的責任を果たす大学経営をめざして』
- ・吉澤剛（2014）「大学・学協会の社会的責任論」研究・イノベーション学会年次学術大会講演要旨集, pp. 634-637.
- ・鷺田清一（2008）『「大学の社会的責任」のもう一つの果たし方』『IDE—現代の高等教育』No. 497, pp.4-8.
- ・UI Green Metric World University Ranking <http://greenmetric.ui.ac.id/>